



関西光科学研究所(2022年2月28日発行)

メッセージ

節分を過ぎたあたりから急に日が長くなり、三寒四温で日に日に暖かくなってきたように感じます。もうすぐ桃の節句です。桃の節句と言えば、てっきりお雛さまの祭りかと思っていましたが、元々は魔除け、厄除けを行う季節の節目だそうです。桃には邪気を払う力があり、桃太郎は、桜太郎でも梅太郎でもダメで、鬼退治のためには桃でなくてはならないようです。

3月は季節の移り変わりがとても大きく、人の出入りも激しい。QSTの行事も未来戦略検討委員会や当部門の研究開発評価委員会など、重要な会議が矢継ぎ早に執り行われます。特にこの春は、QSTにとっては将来の研究開発方針の基となる次期中長計策定の時期ですが、一方で、世の中は新型コロナの流行がまだ止まらない上に、不穏で物騒な状況です。個人的にも、コロナ禍にもかかわらずこの1,2か月で冠婚葬祭がすべて揃う稀有な時期となりました。皆さんやご家族にとっても、節目の時期ではないでしょうか。

こんな人生の節目には何をすれば良いのでしょうか。自分を見つめなおせ、節を多く溜めて勇氣と英知を身に着けよ、節目には祈願せよ、などなど、色々な方が様々なことを言われます。私はまさに、人間万事塞翁が馬、人生何が起こるかかわからないし、その良し悪しもすぐにはわからない、と感じます。人生、楽しいことや嬉しいこともあれば、辛いことや悲しいこともあります。何が幸せで何が不幸なのかは直ぐには決まらない。なので、嬉しい時にも気を引き締め、悲しい時にも将来必ず幸せが訪れるものと信じて、皆さん、毎日を明るく過ごしましょう。

ということで、まずは桃の節句で、コロナ退治と行きたいものです。



花桃(京都市内)

【関西光科学研究所 副所長 田中 淳】

2022年2月の主な動き

2月4日(金) 第5回 RIKEN-RAP & QST-KPSI合同セミナー開催【Web】

2月8日(火) マテリアル先端リサーチインフラ事業

データ構造化ワーキンググループ勉強会Part 2-3【ハイブリッド】

今後の主な予定

3月3日(木) 微細構造解析プラットフォームシンポジウム(10年の総括)
【ハイブリッド、東京大学本郷キャンパス】

3月4日(金) 京大・JAEA・QST微細構造解析プラットフォーム合同地域セミナー -最新の微細構造・状態解析- 【オンライン】

【きつぷ光科学館ふおとん】

きつぷ光科学館ふおとんの一部再開について:
課外授業(学習投影)等の場としてご利用いただくため、プラネタリウムの上映(月・火曜日を除く)を再開いたします。当面の間は事前予約制といたします。

Webサイト: <https://www.qst.go.jp/site/kids-photon/>

3Dビュー(バーチャル館内案内)

<https://my.matterport.com/show/?m=wAeZTtF8jv8>

○関西光科学研究所 見学等案内Webサイト:

<https://www.qst.go.jp/site/kansai-overview/2527.html>



科学館YouTube

関西研ホームページ <https://www.qst.go.jp/site/kansai/>

関西研ブログ <https://www.qst.go.jp/site/kansai/31978.html>

関西研Facebooks <https://www.facebook.com/KPSIkouhou/>

関西研twitter https://twitter.com/kpsi_kizu



放射光を使った磁石の奥まで透ける顕微鏡 ―X線発光の新原理を用い開発に成功―

量子科学技術研究開発機構の菅原技術員、稲見上席研究員とJFEテクノリサーチ株式会社は、量研で発見されたX線の新しい磁気光学効果(X線磁気円偏光発光)を用い、磁性体深部にある磁区の大きさ、向きの詳細な分布の観察ができる磁気顕微鏡の構築に世界で初めて成功しました。モーターや変圧器に利用されている電磁鋼板の磁区の測定に適用する事により、電磁鋼板の性能向上の手がかりとなることで、省エネルギー化の実現が期待されます。

電磁鋼板は形成された磁区が動くことでエネルギー損失が生じます。そこで表面から内部に渡る全体の磁区構造を知ることが重要になります。従来法では電磁鋼板の表面1マイクロメートル程度までの深さしか観察することができず、そのわずかな手がかりから鋼板の奥深くの磁区構造を推測するしかありませんでした。

本研究では、量研で発見されたX線磁気円偏光発光に着目しました。この磁気光学効果は高い透過力を持つ硬X線で高感度という特徴を持つため、試料の深部の磁区測定が期待されます。磁区を測定するには、発生したX線の円偏光度を円偏光度測定装置で測定する必要があります。この装置は平行光を必要としますが、一方でX線磁気円偏光発光は発散光であるため両者は相入れず、測定効率が悪いという課題がありました。そこで本研究では、新たに平行化ミラーを導入して発散光を平行光に変換することでこの課題を解決し、およそ数十マイクロメートルの深さまで観測することができる磁気顕微鏡(図1)を大型放射光施設SPring-8のQST極限量子ダイナミクスビームライン(BL11XU)に構築し、電磁鋼板の磁区観察に成功しました(図2)。

今後は、磁区構造を三次元的に観察する手法の開発に取り組む計画です。これにより、例えば、電磁鋼板のエネルギー損失の低減を達成し、大きな省エネルギー効果、あるいは、高効率モーターの実現や自動車電動化の推進など、私達の将来に直結した貢献が期待されます。

本成果は、米国物理学協会Journal of Applied Physics 誌のオンライン版に掲載されました。

論文のURL: <https://aip.scitation.org/doi/10.1063/5.0058201>

プレスリリース: 2022年1月25日 <https://www.qst.go.jp/site/press/20220125.html>

【放射光科学研究センター 磁性科学研究グループリーダー 稲見 俊哉、装置・運転管理室 技術員 菅原 健人】

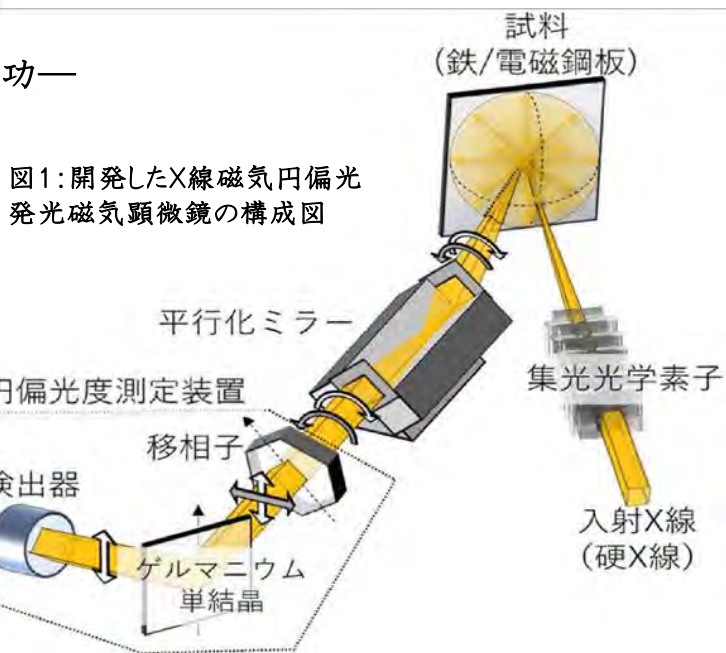


図1: 開発したX線磁気円偏光発光磁気顕微鏡の構成図

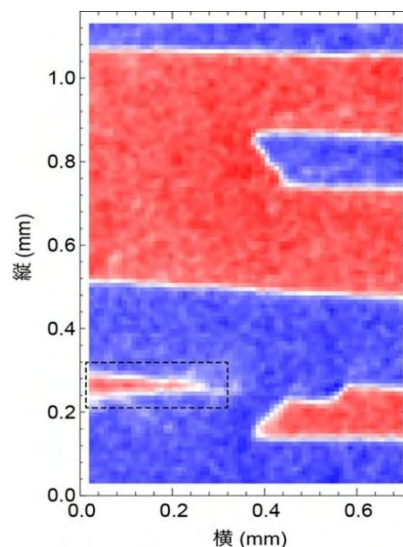


図2: 開発したX線磁気円偏光発光磁気顕微鏡で測定した電磁鋼板の磁区構造。板に垂直方向から見た磁区構造のマップで、数値は板上のメッシュの位置(単位はmm)に対応します。それぞれの位置での色が磁化を表しており、赤は磁化が右向きで青は左向きの磁区、色が濃いほど磁化が大きいことを意味しています。

世界最強最薄ターゲットによるレーザーイオン加速の実現 —グラフェンと超高強度レーザーが切り拓く極限世界—

福田祐仁上席研究員は、大阪大学の蔵満康浩教授、神戸大学の金崎真聡准教授、台湾国立中央大学のWei-Yen Woon教授との共同研究により、蔵満教授らが独自開発した両面が自由表面の大面積グラフェン（large-area suspended graphene: LSG）を世界最薄のターゲットとして用い、関西研のJ-KARENレーザーを用いた高エネルギーイオン加速を初めて実現しました。

これまで薄膜を用いたレーザーイオン加速の理論では、レーザー照射するターゲットが薄いほど高効率の加速が起これと考えられていましたが、ターゲットが薄いほど脆くなり、レーザーパルスのノイズ成分によって、レーザーパルスが到達する前にターゲットが破壊されるため実現困難でした。このため、極薄膜を用いたレーザーイオン加速実験では、プラズマミラーと呼ばれる特殊技術を用いてプレパルスを取り除く必要がありました。本研究では、極薄膜領域ではダイヤモンドより強いといわれるグラフェンを世界最薄のターゲットに用いることにより、プラズマミラーを用いることなく、高エネルギーイオン加速を実現しました。特に、プラズマミラー無しの条件で、2 nm 厚の2層LSGを用いた高エネルギーイオンの生成は、これまでで最も薄いターゲットでありLSGの驚異的なプレパルス耐性を示しています。LSGによるイオン加速は、これまでのレーザーイオン加速の理論では説明が難しいため、未解明の物理を内包している可能性があります。

本成果は、シュプリングー・ネイチャー社のオープンアクセス国際誌「Scientific Reports」に、2022年2月16日（水）に公開され（注1）、大阪大学主体で、QST、神戸大学との共同プレスリリースが行われました（注2）。

本研究は、関西研J-KARENレーザーを用いた施設共用実験の成果であり、科研費基盤A、QST-IRIファンド他の支援を受けて実施されました。

注1 <https://www.nature.com/articles/s41598-022-06055-4>

注2 <https://www.qst.go.jp/site/press/20220216.html>



Y. Fukuda



Y. Kuramitsu



M. Kanasaki



W. Y. Woon

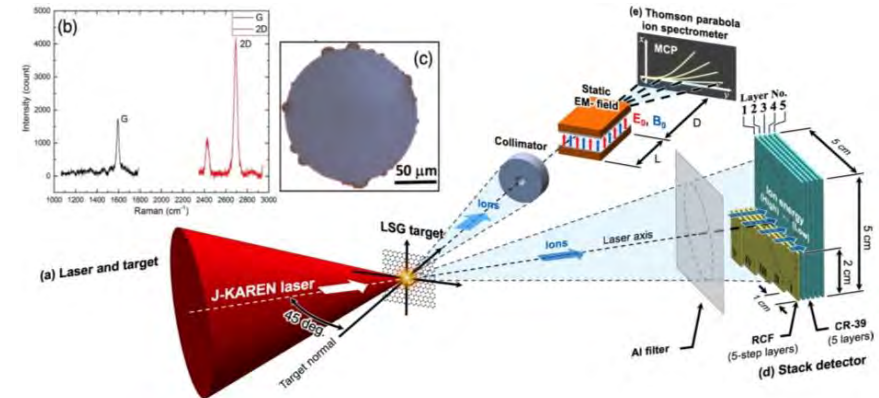


図1. (a)実験概念図。超高強度レーザーJ-KARENをグラフェンターゲット（LSG）に照射し、高エネルギーイオンを加速する。(b)と(c)は、グラフェンを示すラマン分光スペクトルと実際のLSGの顕微鏡写真。(d)と(e)は、固体飛跡検出器とトムソンパラボラという独立な手法を用いたイオン計測器の概念図。

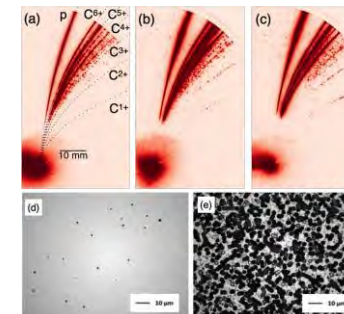


図2. 8層LSGにレーザー照射した際に加速されたイオンシグナル。(a)-(c)トムソンパラボラで検出された同一実験条件での連続3ショット。固体飛跡検出器で検出された、(d)水素イオン（12.2-13.2 MeV）、(e)炭素イオン（14-94 MeV）、のエッチピット。

プレスリリース：2022年2月22日

世界初の完全非破壊コンクリート遠隔打音検査手法を開発
コンクリート構造物のひび割れをレーザーで素早く視覚化
<https://www.qst.go.jp/site/press/20220222.html>

芝浦工業大学(東京都港区／学長 山田純)工学部機械機能工学科・細矢直基教授、機械工学専攻若田祥氏、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(千葉県千葉市／理事長 平野俊夫)量子ビーム科学部門関西光科学研究所・長谷川登主幹研究員、錦野将元研究統括らの研究チームは、コンクリート構造物の欠陥をレーザープラズマから発生する衝撃波で検出する、世界初の完全非破壊なレーザー遠隔打音検査手法を開発しました。

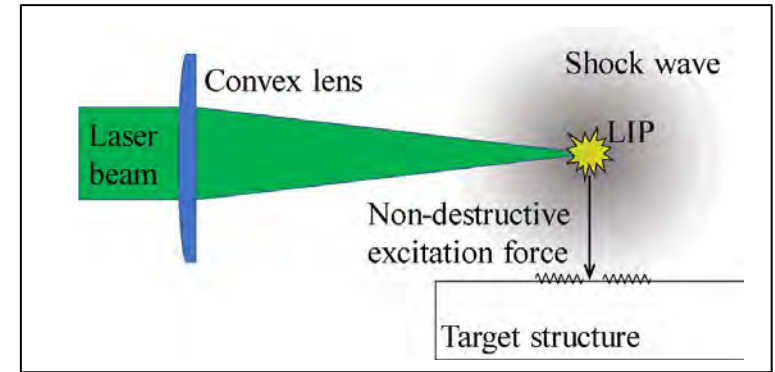
今回開発した方法では、コンクリート構造物の表面近くにレーザー誘起プラズマでレイリー波を発生させ、欠陥部分を特定することができます。建造物に直接高強度レーザーを照射しないため、表面を傷つけない計測が可能です。

関西研で開発している「レーザー打音検査装置」は、レーザーによるアブレーションにより遠隔で振動を起こすことで、コンクリート内部の欠陥を検知する装置ですが、レーザーの照射による照射跡が、新品のトンネルや塗装面などへの適用を難しくしていました。

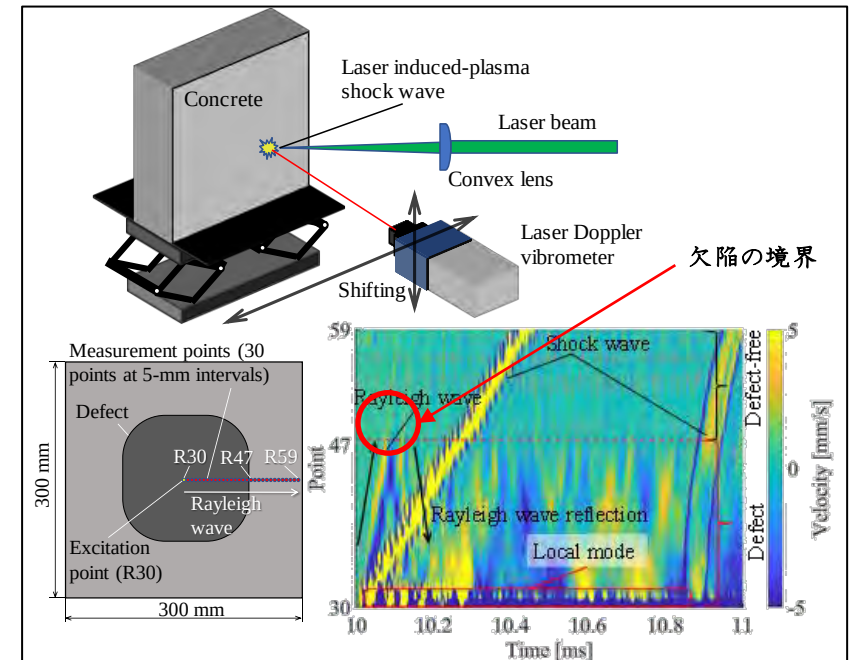
細矢教授らは、以前からレーザープラズマから発生する衝撃波を用いて、金属材料から食品まで様々な対象での振動計測を手がけており、今となっては懐かしいコロナ禍前の懇親会(自腹です)で杯を片手に「これはコンクリートに使える」と、共同研究を持ち掛けたのが、今回の成果に繋がりました。

本研究の成果は、“International Journal of Mechanical Sciences” 誌オンライン版に掲載されています(Open access)。

[10.1016/j.ijmecsci.2021.107039](https://doi.org/10.1016/j.ijmecsci.2021.107039)



レーザープラズマ衝撃波による完全非破壊レーザー打音。(プレスリリースより)



レーザープラズマ衝撃波で励起された振動波(レイリー波)の伝搬の可視化による欠陥境界の検知。(プレスリリースより)

【光量子科学研究部 X線レーザー研究グループ 主幹研究員 長谷川 登】

イベント報告

第5回 理研光量子工学研究センター & 量研関西光科学研究所合同セミナー (2022年2月4日(金) Web開催)

今回、第5回(5年目)を迎えた本合同セミナーは昨年に続き、完全オンラインで開催されました。11月に理研の幹事高橋栄治さんと、合宿形式は無理にしても対面(ハイブリッド形式)で出来ると予想、理研和光にて開催する予定でしたが、年が明けてからのオミクロン株の猛威により、オンライン開催と変更せざるを得ませんでした。

参加者数は、昨年と同じ程度で、常時 40 名以上が参加してくれました。他に用事があっても、気軽に参加できるのはオンラインのご利益ですね。講演は、最先端極短パルス光源開発からレーザー電子加速、分子や物性計測に加え、レーザーを利用した測地やトンネル検査などにおけるなど、幅広い領域にわたりました。発表者の皆様には、詳細を聞いたことがない人に向けてわかりやすい講演をして頂いたので、一気にいろいろな知識が増えたような気がします。

自分が普段行っている研究とは少し違う分野での動向を知ることで、自分自身の研究や実験のちょっとしたヒントになることもありますし、将来の方向性を検討したり、共同研究の可能性を考えるいい機会になりました。2年前は合宿形式でしたので、発表の後にも根掘り葉掘り細かいことを聞けたり、発表から脱線したことも話ができ多くの情報交換ができ親睦を深められたのですが、オンラインだとあっさりお終いになってしまうのがなんとなく寂しく感じました。昨年も書いたと思いますが、来年こそ対面の合同セミナーが開催したいと思います。今回参加した方もしなかった方も、来年ご参加頂き、活発な議論に加わって頂けるとありがたいです。



発表者および座長等のスクリーンショット(2022年2月4日)



合同セミナーのポスター(理研松下さん作成)の一部

【光量子科学研究部 超高速光物性研究グループ GL 板倉 隆二】

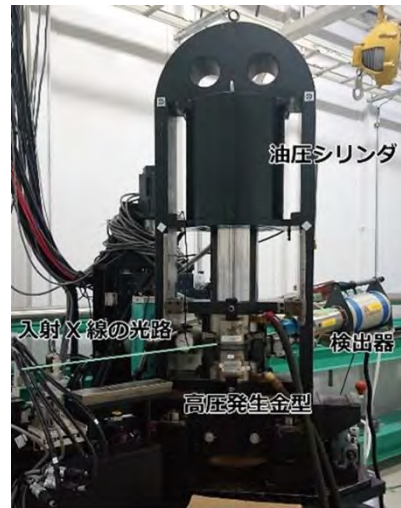
放射光を利用した新しい金属水素化物の合成研究

金属と水素の化合物である金属水素化物は、水素エネルギーを利用する上での貯蔵材料として期待されているほか、高温超伝導や高速イオン伝導などの様々な機能性を有していることから、国内外で精力的に研究が進められています。新規機能性材料を得るために様々な合成方法による研究が進められている中、高温高压合成は熱力学的に新規水素化物探索に有利なため、多種多様な水素化物実現に貢献しています。

高压下で新物質探索を行うにあたっては、温度、および、圧力、保持時間などの合成パラメータを一回の実験あたり1つだけ少しずつ値を変え多数の実験を繰り返し行い、常圧下に回収された試料を分析・比較することで合成条件を決定していく必要があります。ここで、高輝度で指向性が高い放射光X線を利用すると、高温高压下で目的とする合成反応が進行しているかどうかをその場で観察可能となります。これにより合成条件の決定を迅速に行うことができます。

当研究グループでは、関西研便り8月号でも報告したとおり、希少な金属を使わずにアルミニウムと鉄からなる合金により水素を貯える材料の合成に成功するなど、新規水素化物合成研究を強力に進めています。

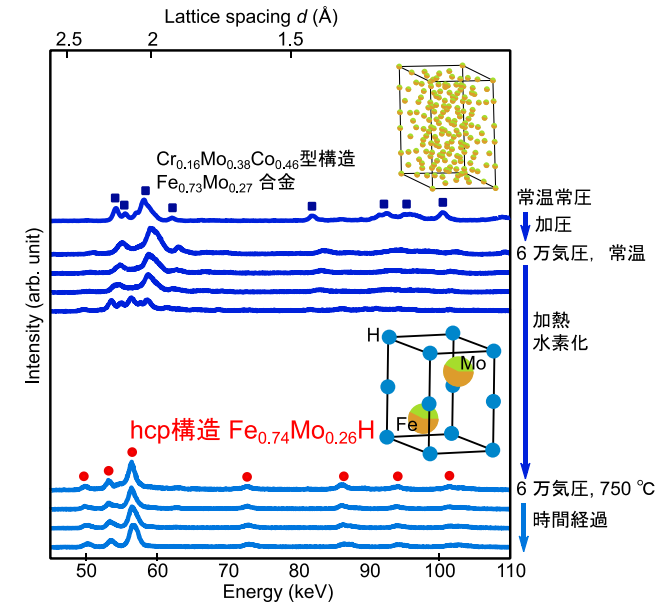
また、新規物質の合成だけではなく、どのような反応メカニズムで水素化物が生成するのかといった水素科学の基礎研究も放射光を活用して進めています。この様な研究による成果は水素科学の発展への貢献のみならず、新規水素化物の合成指針を得ることにもつながり、材料探索が戦略的、かつ、効率的に進められる様になってきています。



大型放射光施設SPRING-8の量研専用ビームラインBL14B1に設置された高温高压装置



合成実験用の高压装置と筆者



Fe-Mo合金を水素化すると、水素化前の合金の結晶構造とは異なる、FeやMo単体の水素化物が混合した擬二元系水素化物を形成することを見いだしました。この反応プロセスが他の合金でも同様に進行することが分かりつつあります。

所内活動

安全安心で快適な職場環境や周辺環境をめざして(作業環境測定や環境測定のご紹介:下期)

安全安心で快適な職場環境のため、労働安全衛生法により、事業者は年2回、作業環境測定を実施しています。

具体的には、事務所衛生基準規則に基づいて、事務室等では目安として室温が17℃～28℃、湿度が40%～70%の範囲内か、照度が普通の作業を行う場合において150ルクス以上、二酸化炭素濃度が1000ppm以下となっているか等を確認しております。

また、化学物質を取り扱う実験室等では、実験室内の空気中の化学物質濃度を測定し、作業員へ化学物質の吸入の恐れが無いか確認しております。

これらの作業環境測定により適切な職場環境であるかを確認し、必要により対策を執ることにより、作業員の健康保持に寄与しております。

さらに、年2回以上、環境測定として、関西光科学研究所木津地区周辺の騒音測定、振動測定、排水の水質測定等を行っており、京都府環境を守り育てる条例で定める各基準値の範囲内であることを確認しております。

纏めますと、作業環境測定や環境測定により、作業員を始め、地域の皆様にも安全安心な環境を目指して、これからも活動して参ります。



居室での温湿度計測



実験棟での化学物質の濃度測定

【管理部 保安管理課】

エントランスでの自動検温システム導入

関西光科学研究所では、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、来所者様に対して非接触式の手動検温を実施しておりましたが、このたび自動検温システムを導入いたしました。これにより体温測定を行うことによる接触リスクの回避や来所いただく全ての方への検温を素早く実施することが可能になりました。

管理棟建屋入口(エントランス)に設置しており、通過する人を自動で認識します。顔部分の体温を一瞬にして画面上に表示し、37度5分以上またはマスク非着用の場合、音声メッセージおよびLEDライトにてお知らせします。その場合は、職員が参りますのでそのままお待ちください

。これからも、関西光科学研究所では、感染防止対策の強化、感染リスクの低減を図り、安心して来所いただける環境を整えていきたいと考えております。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



検温結果は音声メッセージ/画面表示/LEDライトにてお知らせされます。

大型サイズ・カラープリンター(木津地区図書室)

学会のポスターセッションや研究成果の説明に使うポスター用の大型プリンターを管理棟図書室に移動しました。ポスター用の大型紙(紙、印画紙・布)への印刷が可能です。

新型コロナウイルス感染症の流行で、この2年間は学会・交際会議等で使用するポスター印刷は減りましたが、左記事にあるエントランスでの成果報告掲示やQSTの紹介等、研究所エントランスで使う大型ポスター印刷等で利用しています。



大型カラープリンター(関西研(木津地区)図書室)

最大:B0サイズ(1030×1456mm)から、A0サイズ、B1サイズ、等のカラー印刷が可能です。

【管理部 庶務課】



契約に必要な法律知識(番外編)

【第21回 法律に関するトリビア】

1. 一番名前が短い／長い法律？

一番短い(2文字) …民法、商法、刑法

一番長い(110文字)…日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第六条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定及び日本国における国際連合の軍隊の地位に関する協定の実施に伴う道路運送法等の特例に関する法律

憲法の正式名称は「日本国憲法」なので5文字です。



2. 一番条文が少ない／多い法律？

一番少ない(1条)

…失火ノ責任ニ関スル法律

記名ノ国債ヲ目的トスル質権ノ設定ニ関スル法律
元号法 (←「条」はないけれど「項」は複数) など

条番号が一番多い(1050条) …民法

条数が一番多い(1714個) …地方税法

最後の条番号は803条ですが、枝番(第3条の2、第15条の2の2など)が多いため条数が多くなっています。

1条しかないので「第1条」も書かれていません。

全26文字で、文字数も一番少ない法律です。



外国と通謀して、日本に対し武力を行使させることをいいます。

一番刑罰が重い／軽い犯罪？

一番重い(死刑のみ) …外患誘致(がいかんゆうち)罪

一番軽い(拘留又は科料) …侮辱罪、軽犯罪法に記載の犯罪

拘留: 1日以上30日未満、刑事施設に収容されること。
科料: 千円以上1万円未満の金銭を徴収されること。

え、そんなことまで!? と思うような、ちょっとした犯罪が列挙されている法律です。



皆さんこんにちは。経理・契約課の島田です。

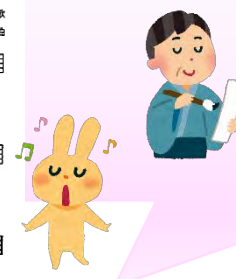
年末から業務が忙しくなり、休載しておりまして申し訳ありません。現在も人手が足りず忙殺されていますが、息抜きに「法律の話」ではない法律の話、法律に関するトリビア(雑学)をご紹介します。

3. 歌が載っている／歌になっている法律？

歌(楽譜)が載っている法律

…国旗及び国歌に関する法律

文言が歌(五七五)になっている法律



日本最古の法律は大宝律令でしょうか。

4. 現役で一番古い法律・政令？

一番古い法律(明治17年公布)

…爆発物取締罰則

一番古い政令(明治5年公布)

…改暦ノ布告



太陽暦が導入され、1年が365日であることや、月の大小が定められました。

5. 最後にワンポイント？

法律は、難しい、堅苦しい、面倒くさいイメージがあるかもしれませんが、皆さんの身の回りのルールを定めている意外と身近な決まり事であり、それぞれの時代を反映した歴史的な著作物でもあります。

少しでも多くの方に、法律に興味をもっていただけたなら幸いです。

理事会は、全ての理事で組織する。

医療法第47条の7など

学問の自由は、これを保障する。

日本国憲法第23条



関西光科学研究所近隣の城跡を訪ねて

園部城:京都府南丹市

1. 城の歴史

江戸時代初期に入部した小出氏が園部陣屋を建設。江戸時代を通じて園部藩の政庁であったが、江戸時代末期の大政奉還後に「帝都御守護」のため、城郭への改築が認められ、我が国最後の日本式の城郭として明治2年に竣工。明治5年の廃藩置県後に現在の遺構以外は払い下げられ、政庁としての役割を終えた。

2. 城の遺構

巽櫓、番所、櫓門及び本丸土塁などが現存している。本丸が園部高校の敷地に当たることから、何れも同校の敷地内にあり、櫓門は同校の校門の代わりとなっている。

なお、巽櫓の軒先は城郭としては異例に長く、寺院建築の影響が感じられる。



(櫓門、番所、巽櫓:たつみやぐら)



(櫓門)

3. 城の性格

小藩(約三万石)である園部藩の政庁として、山陰から京都に向かう交通の拠点に設置されたこれと言った特徴の無い性格の城郭である。裁判所を始めとする公共施設が隣接地に置かれており、この地が治政の中心として適地であったと考えられる。

この城の最大の特徴は最後の日本式城郭という点にあり、現存する遺構は良好な状態のまま保存され、生きた教科書として生徒達に歴史の盛衰を語りかけている。

4. アクセス

JR園部駅から徒歩20分。隣接する園部公園内に駐車場有。

自動車では関西光科学研究所(木津地区)から、京都縦貫道等を經由で約80分。

“一刀石(いっとうせき)” 奈良市柳生町戸岩谷

「鬼滅の刃(きめつのやいば、作者:吾峠呼世晴)」は日本のマンガの1つで、映画興行ランキングでは歴代1位を獲得した有名な作品です。

主人公の「竈門炭治郎(かまどたんじろう)」の立志伝編、修行最後に登場する「一刀石」は架空のしめ縄で祀った大石ですが、それに似た巨石として奈良・柳生町戸岩谷にある約7m四方で中央から真っ二つに割れた花崗岩が聖地巡礼として俄かにとても有名になりました。この花崗岩、元々は石舟斎(せきしゅうさい、柳生宗厳:やぎゅうむねよし)が修行中に天狗と試合を行い、一刀のもとに天狗を切り捨てたところ二つに割れた花崗岩の巨石が残ったという言い伝えがあります。この逸話、マンガの設定にも似たところがあります。(マンガのほうが「後」でしょうが)。

関西研からはクルマで山道(国道369号線)を40分ほど、柳生にある芳徳寺近くに市営の駐車場があり、「一刀石」まではそこから徒歩で20分程度、細くねった山道を徒歩でのぼると到着します。当日(2022.2.23)は寒かったためか、祝日(天皇誕生日)でしたが人はあまり見かけませんでした。

柳生の里は、他にも毎年初夏の頃の菖蒲園、柳生八坂神社、柳生杉、もみじ橋、瘡瘡(ほうそう)地蔵などの見どころもありますので、一度訪問してはいかがでしょうか。



「一刀石」:人気の「聖地巡礼」のためか、撮影用のステージ、プラスチック刀、スマホ用三脚が置かれています。



「一刀石」についての説明掲示。これはかなり前に設置されたようで「鬼滅の刃」関連の記載はありません。

【量子ビーム研究企画部(木津) 織茂 聡】



近くには炭焼き小屋もあります。「柳生ロマンの里博物館」との表示がありました。



天石立神社の鳥居。この奥、徒歩3分ほどのところに「一刀石」があります。

錐体万華鏡を展示しました

二等辺三角形形状のミラーシートを組み合わせて作った底面のない錐体(これを錐体鏡と呼びます)の中に、正三角形や正四角形、正五角形の板(ここではハーフミラー)を一枚入れるだけで、正多面体を見ることができます。

錐体鏡にLED豆電球による照明を配ったタイプの錐体万華鏡を製作・展示し、来館者にも楽しんでいただきました。

光の科学ゾーンに設置の「波のテーブル」は、波の回折や干渉現象を観察できる展示装置ですが、老朽化が進んだため現在改修を行っています。



工作体験



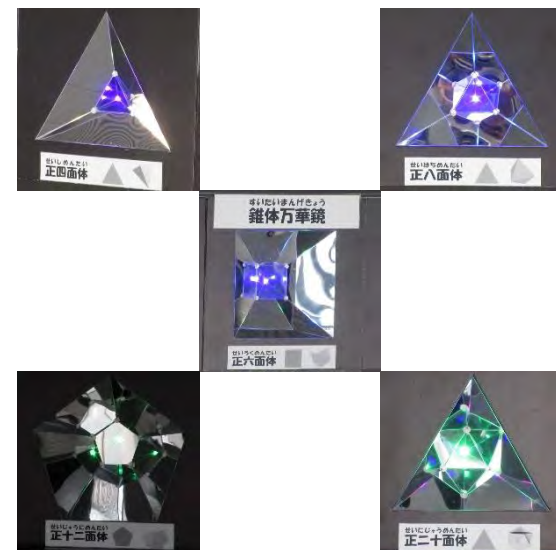
偏光工作作品(例)



展示装置「波のテーブル」の改修



光の不思議体験「錐体万華鏡」



錐体万華鏡(正四面体～正二十面体)

人事往来

吉田 美香 (よしだ みか)

量子ビーム科学研究企画部(木津駐在)

2022年2月1日付(着任)

2月1日より研究企画部にてお世話になっております。

至らない点多々あるかと思いますが、1日でも早く業務に慣れるよう努めてまいります。体を動かすことが好きでスポーツジムに通っています。最近では、プロテインやオートミールで作る料理に夢中です。どうぞよろしくお願いいたします。

嶋田 恵朋 (しまだ よしとも)

装置・運転管理室(播磨地区) 派遣職員

2022年2月1日付(着任)

2月より装置・運転管理室にてお世話になっております。これまで主にビームラインの維持管理・光学系調整・ユーザーサポートに従事しておりました。この度慣れない事務の業務もあるとのこと多少不安もありますが、皆様から丁寧なご指導を頂いておりますので早く習得してお役に立てるよう頑張ります。最近の趣味は健康維持を兼ねて週末山に登ることです。至らぬ点多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



姫路 書写山にて(嶋田恵朋)



鬼は外 福は内 Evils out! Fortune in!



びわ湖バレイ(滋賀県)



左:消火活動後に関西研に戻りエントランスにて撮影 右:林野火災(2022年2月22日)



編集後記: 私が地域貢献として活動している、木津川市消防団活動が5年目となりました。先月の消防団出初式では、団員として「市長表彰」を受賞することができ、お正月気分のままその週末をご機嫌に過ごしておりました。一方、火事や災害はいつでもどこでも発生する可能性があります。たまたま今月22日(火)15時半過ぎ、関西研(木津地区)から西へ1km少し、奈良市との境(木津川市・市坂高座)で林野火災が発生、木津川市危機管理課からの消防団出動要請を受けました。直ぐに研究所から消防団詰所(木津第3分団第3部:クルマで3分)に行き、着替え・ヘルメットとブーツ着用、20分弱で現場に到着、同じ市坂地区の消防団員4名で奈良市消防署及び相楽中部消防署の消火活動に協力することができました。消防団活動では、火災や台風での出動は年に1回か2回ですが、団員全員参加の教養訓練、水難救出訓練、月初めの無線機テスト、年末特別警戒等、今週末に行う野焼き、等、いろいろな活動が主に日曜日にあります。関西研(木津地区)勤務者は木津川市消防団への参加が可能です。地域活動に興味のある方は是非お知らせください。(関西研(木津地区)勤務者は木津第3分団第2部:梅谷となります) 織茂 聡(量子ビーム科学研究企画部(木津駐在))